

Sunbrella
magazine

夏号

2026 AUG

Vol.12

サンブレラ

コミュニケーションマガジン

熊本地震により被災された皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。
被災された皆さまの一日も早い復興と、地域の再生を心よりお祈り申し上げます。

当社では、地震や大雨などの自然災害に備え、当社が運営する全ての居住系サービスにおいて、防災用品の準備や3日分を目安とした食料の備蓄を進めております。災害はいつ、どこで起こるか分かりません。日頃から備えを整え、万一の際にもご利用者の皆さまに安心してお過ごしいただけるよう、今後も防災・減災への取り組みを進めてまいります。

平素より温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今年9月、当社はナーシングホームとして2か所目となる「サンブレラ三門」を岡山市に開設する運びとなりました。

事業規模が拡大し、より多くの利用者様の暮らしをお預かりすることになりますが、その中で私たちが最も大切にしているのは、介護・看護サービスの質を維持し、さらに高め続けることです。そのため、当社では健康状態の把握や業務記録のデジタル化、情報共有の迅速化など、ICTやAIを活用した環境整備を進めています。こうした取り組みをお伝えすると、「効率ばかりを優先して、人との触れ合いが薄れてしまうのではないか」とご心配される方もいらっしゃるかもしれません。しかし、私たちの考えはまったく逆です。デジタル化を進める目的は、スタッフが“人にしかできない仕事”に、より多くの心と時間を使えるようにすることにあります。

私は現場改善を進める際、「作業をスムーズに行うこと」と「利用者様にとって何が最善かを考えること」の両方が必要だと考えています。組織づくりには、「シングルグループ」「ダブルグループ」と呼ばれる考え方があります。前者は、決められた仕組みの中でより良いやり方を工夫すること、後者は、前提そのものを見直し、本当に大切にすべきことを考える姿勢です。例えば、「水分補給の記録を素早く残すにはどうす

るか」「必要な情報をリアルタイムで共有するにはどうするか」といった改善は、シングルグループにあたります。こうした領域では、AIやデジタルツールが大きな力を発揮します。一方、現場では、もう一步踏み込んだ問いが欠かせません。ある利用者様が「水を飲みたくない」とおっしゃったとき、単に「どうすれば飲んでいただけるか」を考えるだけでは十分ではありません。「体調が優れないのではないかな」「器が持ちづらいのではないかな」「温かいお茶なら飲みやすいのではないかな」。その方の気持ちや背景に思いを巡らせ、関わり方そのものを見直していくことが、私たちの大切にしたいダブルグループの視点です。

効率化は、現場の負担を減らし、働きやすさをつくるための重要な土台です。しかし、その目的は、スタッフが「考えること」を手放さないためにあります。時間的・心理的な余裕が生まれることで、スタッフは利用者様の小さな変化に気づき、自ら工夫しながらケアを行うことができます。利用者様の安心した表情や、「ありがとう」の一言に支えられながら、スタッフ一人ひとりが成長し、その積み重ねがより良いケアへとつながっていきます。

現場で働くスタッフが安心して力を発揮できる環境を整え、後方から支え続けること。それこそが、経営者である私をはじめ、後方支援を担うチームの責務です。これからも地域の皆様に信頼していただける施設づくりに努めてまいります。

お知らせ

「ナーシングホーム サンブレラ 三門」2026年9月オープン!

2026年9月に当社2か所目のナーシングホームを岡山市北区葵町に開設します。JR備前三門駅から徒歩3分、関西高校向かいという利便性もよくわかりやすい立地です。

1か所目の倉敷水江で培った経験を活かし、岡山市でも地域のご高齢の方とご家族のお役に立てるよう取り組んでまいります。

(ナーシングホームについては今号の特集ページで詳しくご紹介しております)

ナーシングホーム



サンブレラ

三門

岡山市北区葵町I-15 TEL.086-255-0566
(JR備前三門駅から徒歩3分/関西高校向かい)



●「ナーシングホーム 倉敷水江」の現在

当社は介護サービスを柱に、地域の高齢者とそのご家族を支える事業に取り組み、創業から10年を超えました。その新たな展開として、2025年にはナーシングホームの1か所目となる「サンブレラ 倉敷水江」を開設し、今年9月には2か所目となる「サンブレラ 三門」の開設も予定しています。

ナーシングホームとは？ 医療的ケアが必要な方が安心して生活できる住まいです。

24時間体制 看護師と介護士が常駐 	医療 ・医師との連携 ・緊急時対応 ・終末期対応 	生活 ・医療と介護の両面から支援 ・その人らしい暮らしをサポート 	こんな方が利用されています - 病院での治療を終えて退院したものの、引き続き痰の吸引や点滴などの医療的ケアが必要な方 - ご家族だけでは24時間のケアを続けることが難しい方 - 日中、ご家族が留守になることが多く、安全に過ごせる環境が必要な方 
--	--	---	--

「安心・安全・そして、楽しい。 その人らしい生活の場を目指して」



マネジャー(医療担当)
下口 弘美
訪問看護ステーションソレイユ

Q1. ナーシングホームは、どのような方が利用されていますか？

現在ご利用されているのは、がん末期の方や在宅酸素療法が必要な方、ストーマを装着されている方、胃ろうによる栄養管理が必要な方など、医療的ケアを必要とされる方々です。状態に応じて、痛みや息苦しさを和らげる緩和ケアも行っており、治療というよりも療養に近いサポートで生活を支えています。



Q2. どのようなナーシングホームを目指していますか？

開設から1年が過ぎ、少しずつですが、目指すナーシングホームの形になってきていると感じています。私たちが大切にしているのは、ナーシングホームを「その人の生活の場」と考えることです。忙しい現場ですが、5分でもいいから利用者様とお話をしたり、手や肩に触れて寄り添う時間を持ちたい。その何気ない時間が、安心や居心地の良さにつながると信じています。その思いを実現するために、看護師と介護士がお互いの専門性を尊重しながら

連携し、医療と生活の両面から支え、利用者様にとって「もう一つの自宅」と感じていただけるナーシングホームを目指しています。



Q3. 目指す姿に向けて、どのような取り組みをしていますか？

利用者様だけでなく、ご家族にも安心していただける環境づくりを大切にしています。終末期には、ご家族が宿泊して最期の時間を一緒に過ごせる準備を整えており、ご希望があれば、住み慣れたご自宅に戻り、日頃から関わっている看護師や介護士が訪問してご自宅での時間を支えることも可能です。また、新たにリハビリ室を整備し、理学療法士によるリハビリを受けられるようになりました。身体機能の維持だけでなく、「明日はリハビリがある」という日々の楽しみや目標を持ち、前向きな気持ちで生活していただける環境づくりにも取り組んでいます。



Q4. 今後、力を入れていきたいことは？

ナーシングホームという選択肢を必要な時に思い出しただけのように、地域にもっと知っていただきたいと思っています。また、デジタルツールを活用し、円滑に情報共有をするための仕組みづくりも進んでいますので、スタッフ同士がよりスムーズに連携することで、利用者様

と向き合う時間を大切にできる環境づくりにも取り組んでいきたいです。利用者様とご家族が「ここよかった」と思える、『安心・安全・楽しい生活の場』を、スタッフと共に作り上げていきたいと思っています。

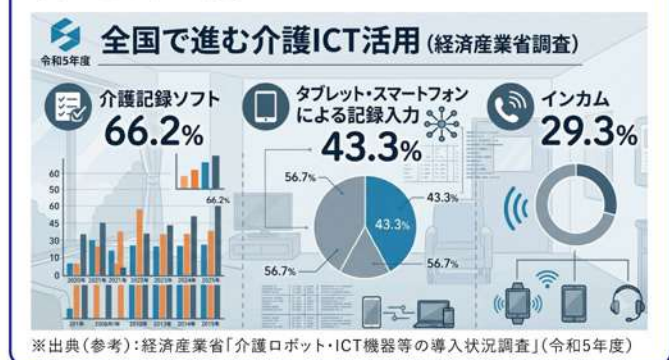


●「安心」を支える、当社の介護DX

近年、介護現場でもICT(情報通信技術)を活用し、業務の効率化とケアの質の向上を目指す「介護DX」が進んでいます。

全国でも進む介護ICT

介護現場でのICT活用は全国的にも広がっています。経済産業省が令和5年度に実施した調査では、介護現場での主なICT導入状況は次のとおりです。



「介護現場もDXで、もっと安心できるケアをお届けしたい」



総務部主任(DX担当)
大片 久

Q1.現在のICT導入状況は？

数年前から介護記録ソフトやタブレット、インカムの導入を順次進めてきました。介護記録ソフトは2026年8月に全事業所への導入が完了する予定です。また、9月には、ご家族がお知らせや請求書などをスマートフォンからでも確認できる専用アプリの導入も予定しています。



Q2.ICT導入で具体的にどんなメリットがありますか？

大きなメリットは、利用者様の情報を法人内で一

元管理できるようになったことです。当社では、ご希望に応じて、有料老人ホームや訪問介護・訪問看護の利用者様に、同一法人内のデイサービスをご利用いただくことがあります。

以前は、利用者様の様子は必要に応じ、メッセージなどで伝え合っていましたが、現在は各事業所で入力した情報をお互いにリアルタイムで確認できるようになりました。例えば、「今朝は血圧が低かった」「日中は特に血圧に問題はなかった」といった情報も、関わるスタッフ全員が共有できます。

事業所やサービスが変わっても利用者様の情報が途切れないため、おひとりお一人の状態に合わせたケアを継続できることは、利用者様やご家族にとって大きな安心につながると考えます。これが、当社の大きな強みの一つです。



Q3.DX化、ICT導入の目的は？

業務の効率化はもちろんですが、目的はスタッフが「楽をすること」ではありません。作業に追われ、余裕がない状態では、丁寧に行き届いたケアは困難です。記録や情報共有といった作業を効率化することで、本来私たちが最も大切にしたい利用者様との時間や寄り添ったケアのために力を注げるようにすることが目的です。

もちろん、新しいシステムを導入すれば、慣れるまでは戸惑いや一時的な負担を感じることもあります。そのためDX担当として大切にしているのは、「誰でも使える」仕組みづくりです。実際に使ってみて不便なことがあれば、気軽に相談できる環境を整え、現場の声を反映しながら改善を続けていきたいと思っています。スタッフ全員が無理なく活用できてこそ、DXはその意義を発揮し、利用者様へのより良いケアにつながると考えています。

Q4.今後、どんなことに取り組みたいと考えていますか？

近い将来では、スタッフのAI活用も視野に入れています。例えば議事録作成ひとつとっても、人によって作業時間や精度にバラつきが出がちです。こういった場面でAIを活用できれば、よりスムーズでスマートな情報共有が可能になります。

ただし、そのためには社内ルールの整備やスタッフのリテラシー(活用能力)向上といった取り組みが不可欠です。導入して終わりではなく、現場でしっかりと有効活用され、定着していく仕組みづくりが必要だと強く感じています。

スタッフの働きやすさが利用者様の満足につながると信じて、これからも推進してまいります。

12月



1月



2月



【12月】

クリスマス会では、プレゼント交換やハンドベル演奏、バルーンアートなどを楽しみました。管理栄養士も張り切って、クリームシチューにフライドチキンなどクリスマスらしいメニューを作りました。年末にはミニ門松づくりをして新年の準備をされました。

【1月】

元日にはおせち料理で新年を祝いました。岡山神社・宗忠神社・春日神社など、それぞれの事業所から初詣に出かけました。書初めや干支の絵付け、福笑いにカルタ遊びなどで新年らしい時間を過ごされました。おやつも栗ぜんざいや綺麗な練りきりでした。

【2月】

節分の日には豆まきやスタッフ扮する鬼を退治するゲームなどを行いました。事業所によっては、桃太郎の寸劇をされたりと童心に戻って楽しめました。またバレンタインには、マシュマロを溶かして作るチョコスモアクッキーづくりにもチャレンジされました。

3月



4月



5月



【3月】

ひな祭りでは、カラフルなキッチンスポンジをひし餅に見立て積み上げるゲームやクイズ、桃の節句にちなんだ合唱などをして過ごされました。男性スタッフが白塗りをしてお雛様に扮して登場した際には大爆笑と共に「きゃー」という悲鳴も聞かれました。

【4月】

桜の季節。地域のふれあいセンター・早島ふれあい公園・吉備津神社・百間川せせらぎ広場へお花見に出かけました。美しい桜を見ておしゃべりの弾む方、感動して涙を流される方など様々。穏やかな天気の中、外の空気に触れ気持ちよく過ごされました。

【5月】

端午の節句では、鯉のぼりを作ったり、兜をかぶってゲームをされました。毎月行っている音楽活動では、「鯉のぼり」「茶摘み」など新緑の季節にちなんだ楽曲を歌うだけでなく、ハンドベルや鈴に加え、初めて目にする珍しい楽器を使って演奏されました。

サンブレラ事業所一覧

□番町事業所	サービス付き高齢者向け住宅 サンブレラ 番町 街なかデイサービス 和音	岡山県岡山市北区番町1-10-4	TEL 086-237-1113
□御津事業所	住宅型有料老人ホーム サンブレラ 御津	岡山県岡山市北区御津高津1787-1	TEL 086-724-1223
□吉備中山事業所	住宅型有料老人ホーム サンブレラ 吉備中山	岡山県岡山市北区西辛川323-15	TEL 086-284-8585
□白石事業所	住宅型有料老人ホーム サンブレラ 白石 デイサービス 花音	岡山県岡山市北区白石546-1	TEL 086-250-6656
□青江事業所	住宅型有料老人ホーム サンブレラ 青江	岡山県岡山市北区青江1-6-10	TEL 086-237-8600
□原尾島事業所	住宅型有料老人ホーム サンブレラ 原尾島 ケアプランセンター クローバー	岡山県岡山市中区原尾島3-6-8	TEL 086-273-0077
□倉富事業所	住宅型有料老人ホーム サンブレラ 倉富	岡山県岡山市中区倉富501-1	TEL 086-277-0330
□倉敷酒津事業所	住宅型有料老人ホーム サンブレラ 倉敷酒津 A館 住宅型有料老人ホーム サンブレラ 倉敷酒津 B館 住宅型有料老人ホーム サンブレラ 倉敷酒津 新館	岡山県倉敷市酒津2747-1 岡山県倉敷市酒津2722-1 岡山県倉敷市酒津2723-8	TEL 086-421-8116
□倉敷中洲事業所	住宅型有料老人ホーム サンブレラ 倉敷中洲 A館 住宅型有料老人ホーム サンブレラ 倉敷中洲 B館	岡山県倉敷市安江547-2	TEL 086-430-4466
□総社事業所	住宅型有料老人ホーム サンブレラ 総社	岡山県総社市駅南1-2-18	TEL 0866-90-0330
□三門事業所	ナーシングホーム サンブレラ 三門	岡山県岡山市北区葵町1-15	TEL 086-255-0566
□倉敷水江事業所	ナーシングホーム サンブレラ 倉敷水江	岡山県倉敷市水江1195-2	TEL 086-454-4777
□操南事業所	グループホーム パラソル 操南	岡山県岡山市中区藤崎136-26	TEL 086-230-0501
□倉敷中庄事業所	グループホーム パラソル 倉敷中庄	岡山県倉敷市中庄2371-1	TEL 086-441-8077
□野田事務所	ヘルパーステーション ハンズケア 訪問看護ステーション ソレイユ	岡山県岡山市北区野田3-1-18	TEL 086-250-3551

表紙デザインについて

この広報誌の表紙には、障がい者アート作品を使用しています。障がい者アートの純粋で無垢な魅力を活かしながら、福祉作業所で働く方々の収入ややりがいや働きがいの向上を目指すといった団体の活動に賛同し、採用を決めました。当社も社会の一員として、サステナブルな社会の実現を微力ながら参加したいと考えています。尚、同団体は、IAUD国際デザイン賞2020を受賞しました。ますますの活躍と発展を祈念いたします。

※国際ユニヴァーサルデザイン協議会(IAUD)は、「ユニヴァーサルデザインの更なる普及と実現を通して、社会の健全な発展に貢献し、人類全体の福祉向上に寄与すること」を基本理念として活動する団体。IAUD国際デザイン賞2020は、世界14か国からエントリー。

編集後記

ナーシングホームと介護DX、それぞれの現場責任者の言葉からは強い責任感と思いやりが伝わりました。私は別領域でシニア世代と関わる中で、「今日、用がある／教養がある」ことが生きがいにつながるとよく、お聴きします。そのため、ただ療養だけをして過ごすのではなく、自分の意志で活動できる環境づくりを現場が提案し、会社もそれを承認して設備を整えた話に感動しました。またICTやAIの活用を「楽をするため」ではなく、「できることを考える時間を創るため」と捉える視点にも深く共感した今回のインタビューでした。